

結果報告□10月Web教えてモニター「焼酎(薩摩蒼波)」

【テーマ・商品】

「焼酎(本格芋焼酎 薩摩蒼波)」

薩摩蒼波規格:1800ml紙パック 価格:本体 1,500円 税込 1,620円

【モニター目的】

組合員の焼酎の利用実態、推奨ブランド『本格芋焼酎 薩摩蒼波』の評価について調査し、情報を今後の企画・品揃えに活かす。

【回答期間】

10/9~10/19 【回答者数】 685名

■総評

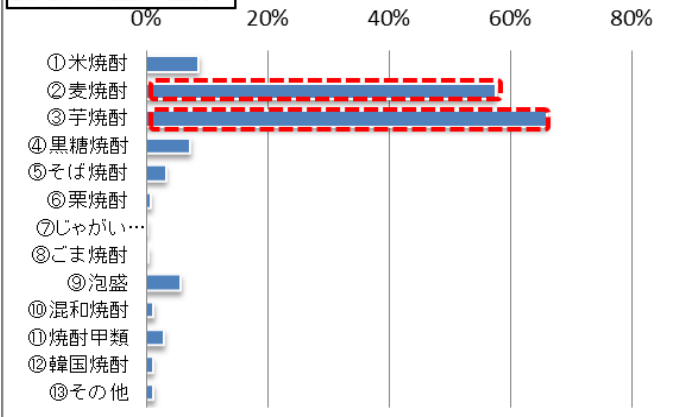
(1)返信率が非常に高く、今回のテーマへの関心の高さがうかがえます。焼酎を飲む方の9割近くが、主に自宅で飲むと回答し、外でもよく飲む方は13.4%でした。多くの方が「家飲み派」で、半数以上の方がほぼ毎日、晩酌していました。飲み方は「お湯割り」、「水割り」、「ロック」が中心で、ストレート、ソーダ割りや梅干し、柑橘類を入れる方は少数派でした。年配の方はお湯割り、子育て層は水割り飲む比率が目立ちます。

(2)よく飲む種類は、「芋焼酎」(66.0%)と「麦焼酎」(57.7%)が圧倒的ですが、若い世代は芋を、シルバー層は麦を好む傾向が見られます。よく利用するサイズ・容器は「1.8L紙パック」が66.7%で全世代ともに突出しています。「4Lペットボトル」のジャンボサイズ焼酎は7.0%の方が利用していました。

(3)生協が推しているNB品『本格芋焼酎 薩摩蒼波』は、ファミリー～シルバーの3層では一定の利用がありますが子育て層の利用は認められませんでした。この商品の購入理由は「芋焼酎が好きだから」が最も多く、「価格が手ごろだから」、「鹿児島県産の焼酎が好きだから」等が続きます。味の評価では「よい」「ややよい」を合わせて86.0%の支持があり、コストパフォーマンス評価も「お買い得感がある」「妥当な価格」を合わせて8割に達しています。ただ特徴が薄いのか、総合評価は平均☆3.6個、再利用の意思は51.6%という低い数値に甘んじています。世代別では、ファミリー層が総合評価☆3.8個、再利用の意思58.1%と最も高くなっています。

(4)コメントの分析からは、数量限定でもかまわないので赤霧島の企画を増やしてほしいという要望の根強さが見えてきます。また、いろいろな銘柄を楽しんでみたいという声も多いです。

良く飲む焼酎の種類は



■組合員の声

- ・赤霧島も可能な限り扱って下さい(ネットのみの数量限定で良いので)
- ・銘柄がたくさんありすぎるので、生協だけではなかなか揃えられないと思いますが、色々なを紹介してほしい。
- ・酒屋で買って来るのは重たいので4Lなどデカサイズを取り扱ってもらえるとうれしい。
- ・最近、同じ物ばかり飲んでるので、変わった銘柄の物もトライして行こうと思います。
- ・試飲ができるサイズがあれば味を見る為購入します。買うかどうかは銘柄だけで購入はできません。
- ・寒い夜には熱燗よりもお湯割りの焼酎が食事酒として優れていると常々思っています。これからの季節はさらに焼酎を嗜む晩ご飯の機会が増えてきます。
- ・パッケージに味の特徴などをわかりやすく表示してくれると、飲んだことのないものにチャレンジしやすくなると思います。